
SECTION 8 の練習問題解答例

公共選択論 2020：浅古泰史

I. (割引因子と議会内交渉モデル)

- i. 2 期目の期待利得の 1 期目における価値は、議員 1 は $2/9$ であり、議員 2 と 3 は $1/3$ である。よって、1 期目に議員 1 が議案決定者となった場合、議員 2 か議員 3 のどちらか一方に、それぞれ $1/2$ の確率で配分 $1/3$ を与える提案をする。一方で、1 期目に議員 2 か 3 が議案決定者となった場合、議員 1 に配分 $2/9$ を与える提案をする。

- ii. 議員 1 の期待利得は

$$\frac{1}{3} \times \frac{2}{3} + \frac{2}{3} \times \frac{2}{9} = \frac{20}{54}$$

である。

- iii. 議員 2 と 3 の期待利得は

$$\frac{1}{3} \times \frac{7}{9} + \frac{1}{3} \times \frac{1}{2} \times \frac{1}{3} + \frac{1}{3} \times 0 = \frac{17}{54}$$

である。

- iv. 2 期目にも議員である確率が低い議員は、2 期目に進ませたくないため、それほど多くの配分を求めない。その結果、議案決定者にはパートナーとして選択されやすくなる。その結果、高い期待利得を有している。